宇治市都市計画マスタープラン

意見交換会(大久保地域)

令和3年11月2日(火) 開催



宇治市都市計画マスタープランの役割

実現すべき都市の将来像を明確にする

市民の合意に基づく都市計画を進めるため、様々な地域特性を踏まえ市民の意見をいかしながら、将来のまちの姿や都市づくりの方針を「実現すべき都市の将来像」として明確にします。

都市計画の決定・変更の指針となる

マスタープランは、今後展開していく様々な都市計画の基礎となります。したがって、土地利用や道路、上下水道、公園などの都市施設に関する都市計画が決定・変更されるときの指針となります。

都市づくりを進めるための指針となる

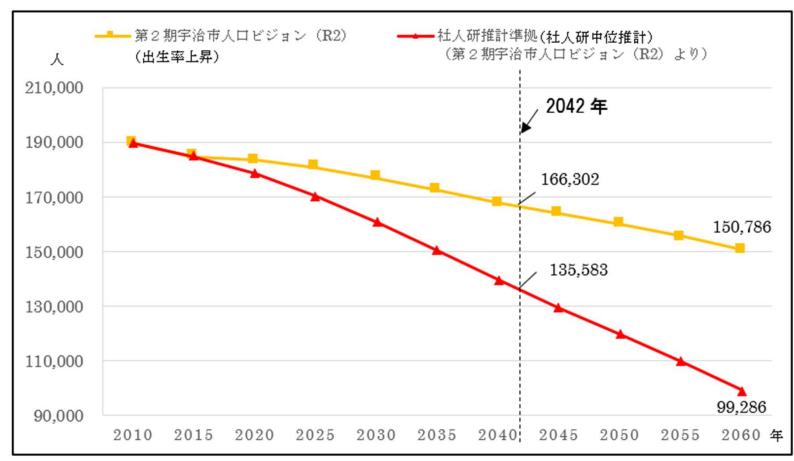
マスタープランで示す将来像に基づき、土地利用や都市施設などに係る各種都市計画の整合性を図るための指針となります。

市民と行政の協働を積極的に推進する

市民と行政の協働を積極的に推進するため、可能な限り情報を提供するとともに、 市民のまちづくり活動を支援します。

宇治市の現状と課題(1)【人口減少】

■ 宇治市の人口は2011(平成23)年をピークに減少に転じています



	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2040年	2042年	2050年	2060年
第2期宇治市人口ビジョン(R2)	189,609	184,678	183,546	180,837	176,917	167,893	166,302	159,938	150,786
社人研推計準拠	189,609	184,678	178,465	170,329	160,718	139,549	135,583	119,719	99,286

資料:第2期 宇治市人口ビジョン

宇治市の現状と課題(2)



【少子高齡化】

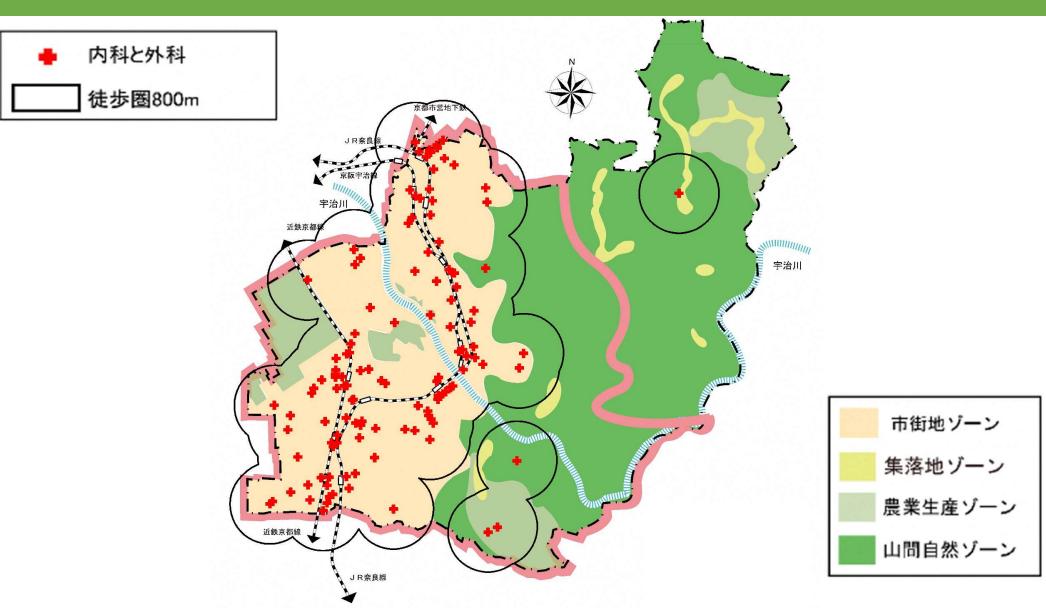
- 65歳以上の高齢者の比率は、2015(平成27)年には26.8%まで高まっています
- 生産年齢人口が減少傾向にあり、地域経済の担い手の減少が懸念されます

生産年齢人口減少

高齢化比率 26.8%



宇治市の現状と課題 ③ 【医療施設の分布】

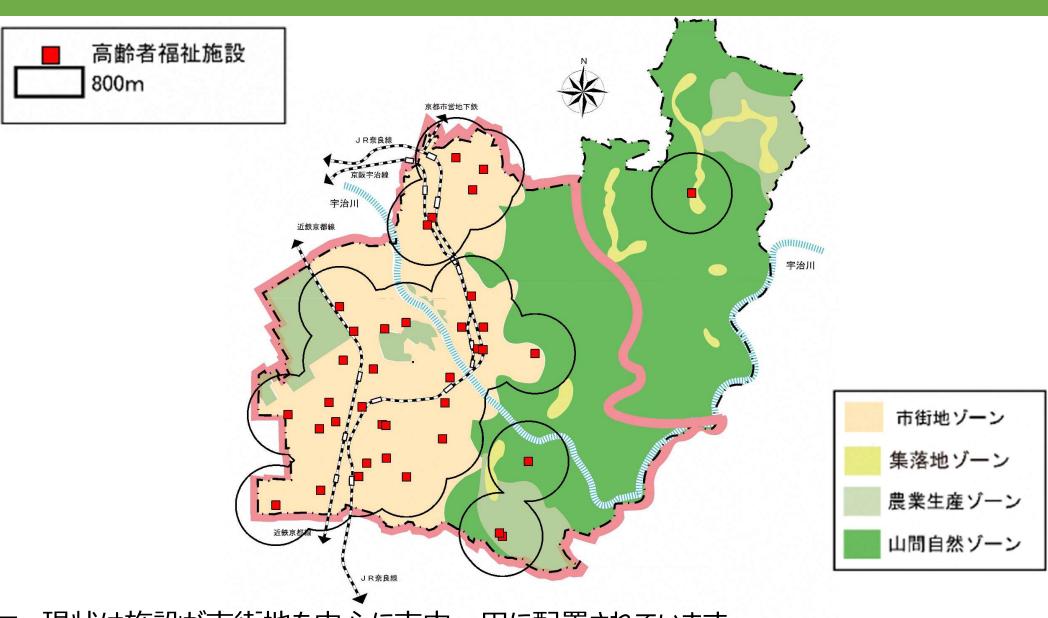


- 現状は施設が市街地を中心に市内一円に配置されています
- 現状は施設の徒歩圏充足率は市街地を概ねカバーしています

宇治市の現状と課題(4)

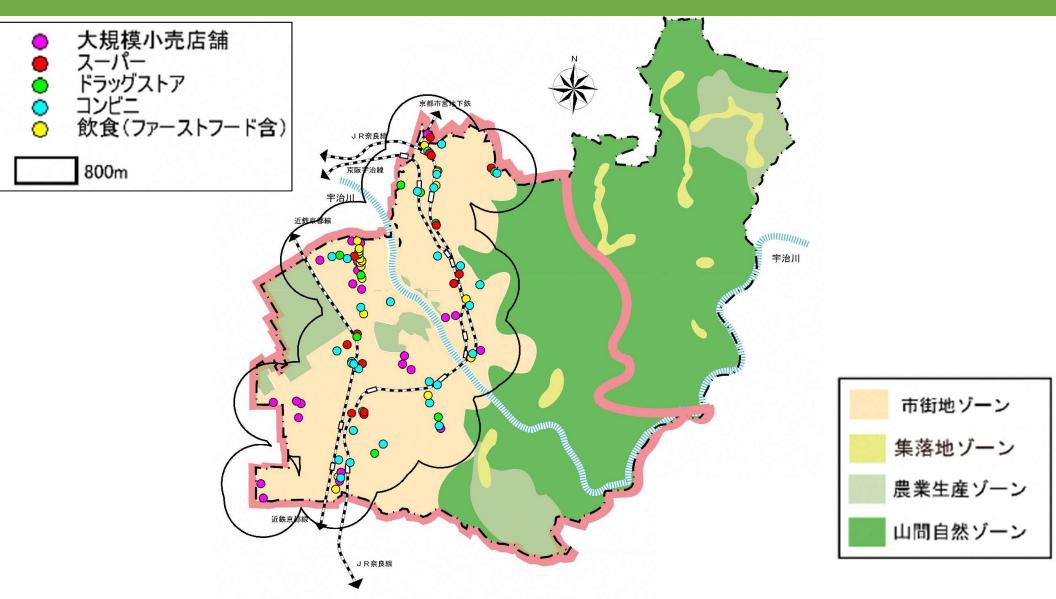


【高齢者福祉施設の分布】



- 現状は施設が市街地を中心に市内一円に配置されています
- 現状は施設の徒歩圏充足率は槇島町の一部を除き市街地を概ねカバーしています 6

宇治市の現状と課題 ⑤ 【商業施設の分布】



- 現状は施設が市街地を中心に市内一円に配置されています
- 現状は施設の徒歩圏充足率は市街地を概ねカバーしています

今後想定される課題

人口が減少していくと、病院やスーパーマーケットなど、生活に不可欠な施設が 減ってしまうかもしれません

居住や医療・福祉、商業、公共交通などの都市のサービス水準をすべての地域で維持

することが困難になってくることが予測されます





これからの都市計画の視点 ①

これまでの都市計画

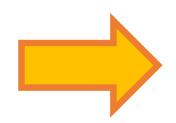
将来の都市インフラの需要を予測し、計画的に整備を図ることが必要

◇現状と課題

- 宇治の人口予測として人口は2011 年(平成23 年)をピークに減少→ 人口減少
- 65 歳以上の高齢者の人口構成比率は上昇、15 歳から64 歳までの生産人口が減少
 - → 地域経済の担い手(働き手)の減少

これからの都市計画

- ☞従前から提供されてきた都市のサービスの水準をすべての地域で長期的に現状維持していくことが 困難となる予想
- ☞交通ネットワーク等を通じて地域と地域が連携・補完し、今あるまちの資源を市民で共有することで 市民が享受できる都市のサービスの質を確保・向上させていくことが必要



成長型社会から成熟型社会へ、 拡大から質の向上を目指す

これからの都市計画の視点 ②

◇これまでの都市計画(長期的視点)

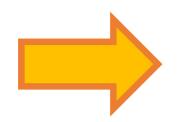
■ 概ね20 年後の長期的な将来を見据えた計画として、将来の都市を描くもの

◇現状と課題

■ 少子高齢化、気候変動、新型コロナウイルス感染症の蔓延など、生活様式や産業構造などに大きな変化の兆候が見られる。

◇これからの都市計画(適応的な管理)

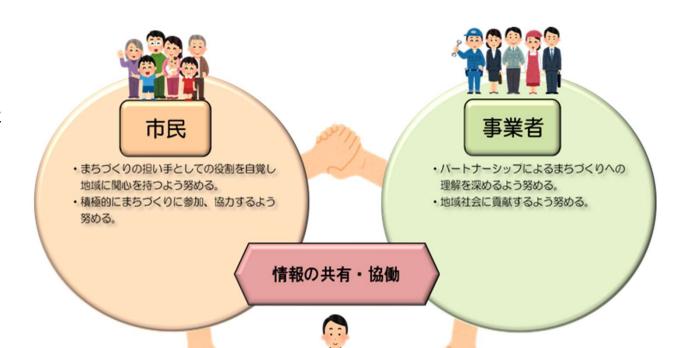
- 長期的に将来を見通すことが極めて難しい状況の中、現時点で考えられる最善の計画と します。
- 環境や社会経済情勢などの変化に適応できるよう、常にその変化を見つめ、変化に応じて 機動的に計画の修正を図ることを可能とすることが必要。(**適応的な管理**)

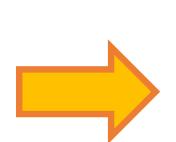


変化に適応できる都市計画プロセス

これからの都市計画の視点③

- 市・市民・事業者が、まちづくりの パートナーとして力を結集し、将来 のまちづくりの姿を共有しながら、 パートナーシップによる都市づくりを 進めます。
- 市・市民・事業者がそれぞれの役割を踏まえ、情報を共有し、協働して都市づくりに取り組みます。





パートナーシップ による 都市づくり

パートナーシップによるまちづくりの推進に 関する施策を総合的かつ計画的に取組む。

市

- 市民等によるまちづくりへの自主性、自立性 を尊重する。
- 協働の促進に向けた環境整備に努める。
- 社会情勢の変化に対応できるよう市民ニーズ の把握に努める。

都市づくりの基本目標

宇治らしさを活かした選ばれる都市づくり

- ① 快適に暮らせる市街地を形成し、豊かな自然を保全し、身近なみどりを守ります
- ② 歴史・文化が調和した良好なまちの景観づくりに努めます
- ③ 文化・歴史や茶業など、資源を活用した個性ある都市づくりをめざします

多様な住まい方・働き方を支える都市づくり

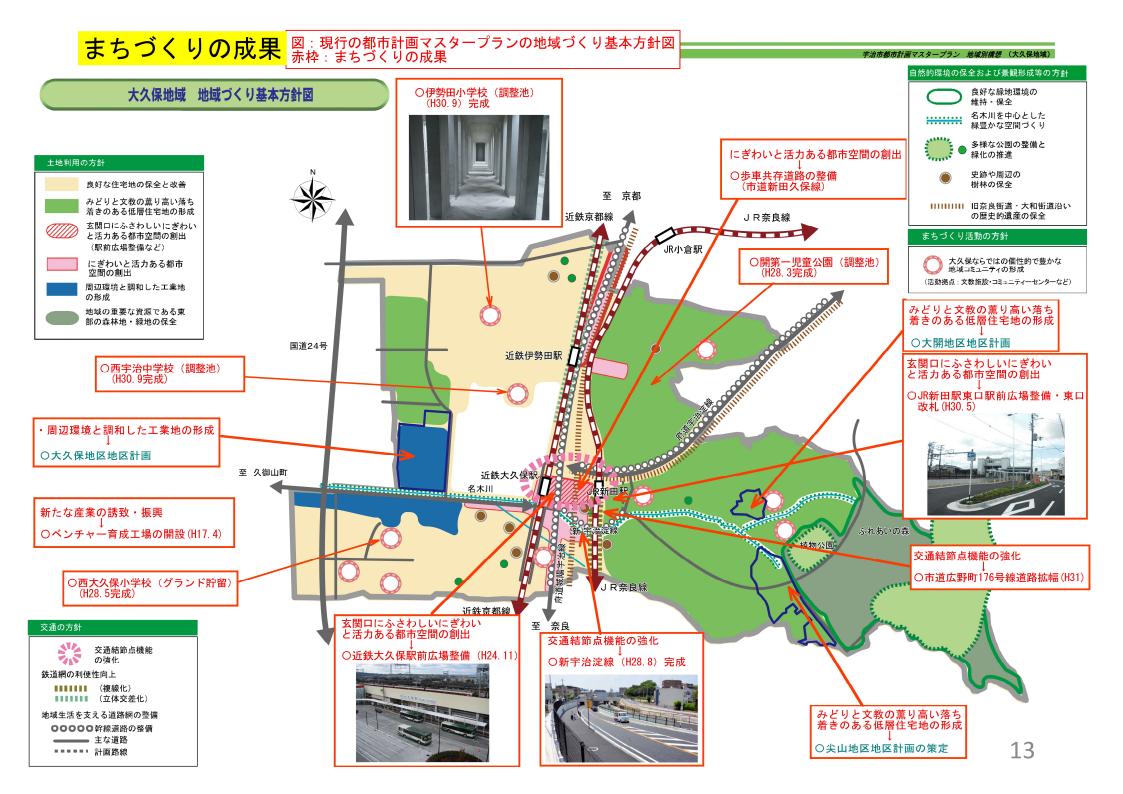
- ① 生活利便性の維持向上による質の高い都市づくりをめざします
- ② 地球環境の持続性に配慮した都市づくりをめざします
- ③ 人にやさしく快適な住環境・都市施設を整備します
- ④ 産業の育成による個性ある都市づくりをめざします

総合的に災害リスクに対応できる都市づくり

- ① 安全・安心して住み続けられる都市づくりをめざします
- ② リスク対応型の都市づくりをめざします

地域と地域が相互に連携し支え合う都市づくり

- ① 各地域が連携・補完し、まちの資源を共有できる都市づくりをめざします
- ② 人にやさしく、環境にやさしい交通体系を実現します
- ③ 歩くことが楽しくなる都市づくりをめざします



地域づくりの主な課題とこれからのテーマ 大久保地域

主な課題

- 工業系の地域においても、住居、商業のニーズが高く、府道沿道(南側)の工業的土地利用が減少 傾向であり、工業用地のあり方について検討が必要です。
- 隣接する城陽市、久御山町との連携による一体性や相乗効果による、まちづくりの検討が必要です。
- 隣接した市町と連携したまちづくりを支援する道路ネットワークの検討が必要です。
- 地域内には洪水浸水想定区域などが存在することから、ハザードマップなどによる災害リスクの共有と、 既成市街地における防災能力の向上が必要です。

大久保ゾーン

地域内の水やみどり、文化・歴史の保全・活用

にぎわいのある商業・業務集積空間の形成

工業地の健全かつ適切な土地利用による産業の振興

鉄道網の利便性を高める都市基盤の充実

伊勢田ゾーン

良好な既存住宅地の保全と改善

地域づくりの基本方針 ①

5-1 土地利用の方針

(1) 住宅地

- ●現在の住環境を大切にした良好な住宅地の保全と改善 地区計画の活用などにより築いた、現在の住環境を大切にしながら、より快適な住宅地の形成をめざします。
- みどりと文教の薫り高い落ち着きのある低層住宅地の形成 東部の豊かな自然に囲まれ、文教施設が数多く立地することを踏まえ、文教の薫り高い落ち着きのある低層住 宅地の形成をめざします。

広野町や寺山台などの背後に緑地が多く見られる台地部では、みどりに囲まれた住宅地の環境を維持しつつ、災害に強く眺望のよい安全・安心できる住宅地としての居住環境づくりに努めます。

(2) 商業·業務地

●宇治市の南の玄関口にふさわしいにぎわいと活力ある都市空間の創出

近鉄大久保駅およびJR新田駅周辺では、交通の利便性をいかした歩いて楽しいまちづくりをめざし、鉄道駅と連携した快適な歩行者空間づくりを検討するとともに、既存商店街の充実などにぎわいを創出することができる土地利用を誘導します。そのため、まちづくり協議会の設置や事業手法の検討を市民とともに行います。また、近鉄伊勢田駅周辺では、必要な都市基盤などのあり方を検討するなどして商業活性化の検討を行います。

(3)工業地

●ものづくり産業拠点の形成

大久保地区地区計画(フェニックスパーク)の区域については、今後も市の主要な「ものづくり産業拠点」として、 健全かつ適切な土地利用を行い、産業の振興を図ります。

(4)森林地·緑地等

●地域の重要な自然的環境である東部の森林地・緑地の保全

山城総合運動公園や植物公園が位置する東部の森林地・緑地はうるおいのある重要な自然的環境であることから、その活用と保全に努めます。

地域づくりの基本方針 ②

5-2 交通の方針

(1)公共交通

●各駅周辺における交通結節機能の強化及び鉄道網の利便性向上

地域内の各駅の交通結節点機能について検討することにより、鉄道やバスなどの公共交通の利便性向上と周辺市町のまちづくりと一体となった利用促進を図ります。また、JR奈良線の複線化による定時性確保や保安度の向上を進めます。

(2)道路

- ①幹線道路
- ●主要地方道宇治淀線および主要地方道城陽宇治線の整備促進 朝夕の交通渋滞の緩和や安全性向上のため、駅へアクセスする主要地方道宇治淀線および主要地方道城 陽宇治線の拡幅など道路整備について引き続き関係機関と協力して進めます。
- ②その他道路
 - ●歩行者の安全が確保され、防災的な機能も有する道路網の改善 市道南山蔭田線をはじめ、日常生活に密着している主要な道路については、歩行者の安全性を考慮した整備・改良を検討します。

5-3 自然的環境の保全および景観形成等の方針

(1) 自然的環境

●良好な緑地の維持・保全

東部の森林地・緑地は市街化調整区域として引き続き自然的土地利用の保全を基本としながら、周辺の美化活動、みどり溢れるオープンスペースの整備など、良好な緑地の維持・保全に努めます。

地域づくりの基本方針 ③

(2)公園・緑地

●名木川を中心としたみどり豊かな空間づくり

名木川については貴重なオアシスとして、その河川沿いに散策道を整備しており憩いのある空間の保全に努めます。

また、街路樹の植栽などにより周辺の緑地等とのネットワーク化を図り、みどり豊かな空間の形成をめざします。

●多様な公園の整備と緑化の推進

山城総合運動公園および植物公園はみどりと交流の拠点として、引き続きその利活用と機能充実を進めるとともに、生産緑地については、引き続き、市街地緑地の保全・活用を図るため、特定生産緑地の指定に努めます。

(3) 文化·歴史的遺産

●史跡や周辺の樹林の保全

庵寺山古墳などの史跡を保全するとともに、円蔵院や旦椋神社などの神社仏閣についてはその保全や境内周辺の樹林の保全に努めます。また、これらの歴史的遺産や名木百選などを結ぶルートおよび道しるべの整備などにより、貴重な資源の活用を検討します。

(4)景観

●秩序ある市街地景観の形成

商業地については、建築物や看板・広告物を適正に誘導します。また、住宅地については生垣や敷地内緑化などを推進することにより、個性と魅力あるみどりに囲まれた景観を創出していきます。

● 旧奈良街道・大和街道沿いの歴史的遺産の保全 旧奈良街道・大和街道沿いの歴史的遺産は、周辺の景観なども含めてその保全に努めます。

地域づくりの基本方針 4

5-4 都市防災の方針

●浸水に対する防災機能強化

地域内の河川・水路では局地的豪雨などによる浸水被害が課題となっています。特に、名木川・井川などの流域では、雨水流出抑制策も含め災害の軽減に向け総合的な治水対策の推進に努めます。

●災害リスクの情報共有

地域内には、水災害リスクの高い地域があります。ハザードマップなどを用いて、市民と浸水や土砂災害および地震の危険性のある地域の情報の共有に努めます。

5-5 まちづくり活動の方針

● 個性的で豊かな地域コミュニティの形成

水やみどりの自然と調和する利便性の高いまちづくりのため、文教施設やコミュニティセンターなどの活用により、 商業地、工業地をかかえる大久保や住宅地である伊勢田ならではの個性的で豊かな地域コミュニティの形成をめ ざします。

